

## 13 Lesson 4 A Miracle Mirror (2)

### 「～したい」と伝えよう

英語監修・出演 阿野幸一

**きょうの目標** したいことを伝えることができる

- したいことを伝えるには
- 言葉に情報を加える

**文法・表現** 不定詞（名詞の働きなど）

#### したいことを伝えるには

次の文の意味を考えてみましょう。

I want your picture. (私はあなたの写真が欲しいです)

この文は、〈I want (私は望んでいます) → 何を望んでいるかという → your picture (あなたの写真)〉という文の形になっています。「望んでいること」が、your picture という名詞に相当する語句で示されています。この文と次の文とを比べてみましょう。

I want to take your picture. (私はあなたの写真を撮りたいです)

I want に続く「望んでいること」が、to take your picture (あなたの写真を撮ること) になっています。つまり、to take your picture が、1つめの文の your picture と同じ位置にあることから、名詞の働きをしていることがわかります。〈I want (私は望んでいます) → 何を望んでいるかという → to take your picture (あなたの写真を撮ること)〉ということになり、「私はあなたの写真を撮りたいです」という意味になります。

to に続く動詞をいろいろと変えることで、さまざまな「したいこと」を表すことができます。

#### ■ 行きたい場所を伝える

I want to go to Hawaii. (私はハワイへ行きたいです)

I want to visit Okinawa. (私は沖縄を訪れたいです)

#### ■ 食べたいものを伝える

I want to eat ramen. (私はラーメンが食べたいです)

#### ■ だれに会いたいかを伝える

I want to meet Mr. Saito. (私は斎藤さんに会いたいです)

## ■ したいスポーツや演奏したい楽器を伝える

I want to play soccer. (私はサッカーがしたいです)

I want to play the piano. (私はピアノを弾きたいです)

## 言葉に情報を加える

次の文の意味を考えてみましょう。

I want something. (私は何かが欲しいです)

この文を誰かから言われたらどのように感じるでしょうか？ 相手が「何かを欲しいと思っている」ことはわかりますが、一番知りたいのは **something** が何なのかということでしょう。この文を言われても、何かをその人にあげることはできません。コミュニケーションを成立させるためには、**something** に情報を追加して、具体的に欲しいものが何かを示す必要があります。次の文を見てみましょう。

I want something to drink. (私は何か飲むものが欲しいです)

この文では、**to drink** が直前の **something** に情報を加えて、「何か飲むもの」という意味にしています。

次の文はいかがでしょうか？

I have a lot of things.

これだけでは「私はたくさんものを持っています」か「私にはたくさんことがあります」のどちらであるかが不明確であるだけでなく、その「たくさんもの」や「たくさんこと」が何なのかがわからないため、コミュニケーションも成立しません。そこで、〈to + 動詞の原形〉を使って次のように情報を追加することで意味のある文にすることができます。

I have a lot of things to do today. (私には、きょうやるべきことがたくさんあります)

1つめの文の **something**、2つめの文の **a lot of things** はどちらも名詞に相当する語句です。名詞を修飾する言葉は形容詞のため、どちらの不定詞〈to + 動詞の原形〉も形容詞の働きをしていることになります。

## あの先生のこの話!



不定詞は〈to + 動詞の原形〉の形で使われますが、この **to** が持っている意味を考えてみましょう。**to** は不定詞のほかにも前置詞（名詞や代名詞の前においてほかの語との関係を表す言葉）として使われますが、どちらの場合も「方向」を表しています。まずは前置詞の **to** から考えてみます。

**I go to school.**（私は学校へ通っています）

この文では、**I go**（私は行く）という習慣を表す部分に続けて **to** が使われています。**go**（行く）の方向はどこかということ **school**（学校）ということになり、**to** の後には **school** という単語が続いています。これは、次のように考えることができます。

**I go**（私は行く） **to**（行く方向は） **school**（学校）。

ということです。

次に不定詞を使った文で考えてみましょう。

**I want to be happy.**（私は幸せになりたいです）

この文では、**I want**（私は望んでいる）という現在の状態に続けて **to** が使われています。つまり、望んでいるその先（方向）にあるものが、**be happy**（幸せになる）ということです。

**I want**（私は望んでいる） **to**（望んでいる方向は） **be happy**（幸せになる）。

ということです。ここでは **to** が表すのは、「方向」の中でも時間軸に合わせた方向、つまりこれから（未来）に向かうということになります。

「これから望むこと」を述べる動詞と、「これからの方向」を表す **to** は相性がいいため、**want to** のように一緒に使われるのです。